

まちづくりに路面電車をどう活かすか！ アラン・メネトー氏 来福講演



詳細は2・3ページ

## 活動報告

- 12月17日 越前市市民バス時刻表作成打合せ
- 12月20日 IRE LRT研究会
- 1月13日 アラン・メネトー氏講演会
- 1月19日 例会・理事会

## 今後の予定

- 1月31日(水) IRE LRT研究会
- 2月3日(土) 臨時理事会
- 2月10日(土) 交通まちづくり会議(和歌山)
- 2月16日(金) 例会・理事会

## 2007年 会長 あいさつ

新年あけましておめでとうございます。本年もROBAの活動が続けられることに喜びを感じています。ROBAがスタートしてこの2月でまる6年になります。私にとってみれば、あまりにも色々ありすぎて長かった6年という実感です。

さて、昨年はNPO法人になって初めての総会、そして初めての税申告を経験しました。行政への報告書類を作成していて、「法人」としての責務を肌で感じました。また、「のりのりマップ」の認知度も次第に高まり、継続発刊の大切さを痛感しているところです。さらには、協働によるバス停のバリアフリー調査やのりのりマップを通じての諸活動が認められ、「福井県バリアフリーのまちづくり賞」の最優秀活動賞を受賞いたしました。

福井県の公共交通事情を考えてみると、北陸新幹線誘致が行政、経済界、議会主導ですすめられていますが、私たちの日常生活に関わる「生活交通」は徐々に削られ、路線バスの減便、廃路線が進行しています。反面、行政単位のコミュニティバスは合併を機会に利用者本位の改編がなされつつあるようです。その中であって、公共交通の行き届かない空白地区の問題や福井鉄道の活性化については依然課題として残っています。

これからも車中心の生活スタイルから人が中心となる社会になるように、活動を通じて市民に投げかけていきます。そのためにはROBA会員のできるだけ多くの参加をいただき、ROBAのスタート時みんなが抱いた夢を叶えましょう。

内田桂嗣 平成19年1月

## アランメネトーさんの講演会に参加して ～フランスの都市交通政策～

当日は講演開始時間が午後3時だったこともあって、気持ちに余裕を持って出かけることができた。また、午前中は福井テレビ“タイムリー福井”において、商店街の方の意見や望月さんの意見を聞く事が



写真：講演前のロビー

ができた事や、メネトーさんの様子などもテレビで知ることができたので、2部構成の講演のような感じで参加できた。

メネトーさんは準備中から会場をブラブラと歩いたり、パネル展示を見たり、時間前に来られた方と気軽に話しをされたり...と気さくな方だった。フランス語オンリーでなく、英語で話が出来たため、私のコミュニケーション手段は片言の英語、ジェスチャー、顔の表情で何とか会話が成立した。



メネトーさんの講演内容は、フランスでトラムが衰退した時点から現在までの政策と今後のプロジェクトについてであった。

フランスでは1950年代からトラムの衰退が始まり48路線あったものが、1971年には3路線になった。(リール、マルセイユ、サンテティエンヌ)しかし、トラムが消えたのが復活のキッカケになり、ストラスブール、グルノーブルを始めとする都市にトラムが復活した。このトラムが消えていった背景は福井と同じで「車優先の社会」である。トラムが車交通の支障となり、住宅は郊外化する

ため公共交通が付いていけなくなった事、どれも福井と同じ状況だ。肝心なのはここから後の「今後、どうしていくか」の部分だが、フランスと日本では交通政策の方針がちがうので、フランスが羨ましい



限りだ。

講演を聴きながら、これまでのROBAの活動を思い出しながら、「今年はあれもやろう、またやろうかな？」と、これまでなかなか出来なかったソフトな活動等が頭の中を駆け巡った。

質疑応答があったので、その内容を紹介する。

交通負担金は誰が払うのか。

10人以上従業員のいる企業が交通局に対して支払う。これは会社の社会保障の一環として捉えられていて、ストラスブールではストラスブール都市圏に対して支払う。

100%低床の共通語は？

フランスではアクセスモビリティという法律が定められているので、アクセシビリティと言っているが、これは日本で言うバリアフリーに近いので、バリアフリーでいいのではないか。

福井とストラスブールの商圏が同じ条件でないので、ストラスブールのやり方をそのまま使えない。

きっかけとして使えばよい。

[最後に]

参加された方の中には、もっと詳しい内容を聞きたいと思われた方も多と思われるが、この内容を初めて聞いた方には新鮮な気持ちで聞いていただけたと思う。また、再度同じような内容として聞かれた方は、再確認としてさらに知識を深めてもらえればと思う。

スタッフのみなさん、本当にご苦労様でした。

(文 はた)

## アラン・メネトー氏講演会「まちづくりに路面電車をどう活かすか！」を終えて

アラン・メネトー氏講演会「まちづくりに路面電車をどう活かすか！」は、180人の来場者を迎えて十分に盛り上がり、終えることができた。来場者の中には県や市の方も散見され、また、商業関係者も見られた。スタッフとして、ROBAのメンバーとともに福井大学の川上研究室と川本研究室のメンバーが大勢参加して共に一つの講演会を盛り上げたことで、新しい空気を感じることができたのも大きな収穫であった。

アラン・メネトーさんのお話の中で強く印象に残ったのは、前日お会いしたときにうかがったものを含め、「トラムの導入は一要素でしかない。」「公共の活動全体が市中心部の疲弊を阻止する方向に動くことが重要。」「福井においてはトラムウェイ整備の目的をはっきりさせるべき。」「ハード整備の前にやるべきソフト施策がたくさんあるのではないかと。まず運行頻度を上げることが重要。」というものである。一方、福井都市圏とほぼ同規模の人口を持つストラスブール都市圏において、現段階の徹底したシステムティックな交通システムに加え、さらなるトラムの延伸と郊外鉄道への乗り入れの計画が進められているという話にも大きな刺激を受けた。

ただ、短い時間のなかで、福井における構想と計画、政策の方向を説明してアドバイスを頂くことができなかったことはいささか心残りである。

また、多くの新聞報道を見る限り、今回の講演会の中で、実は「都市の活性化」「中心市街地の活性化」というテーマが大きな割合を占めていたことを来場者に十分聞き取ってもらえたかどうかはわからない。しかし、講演会後の1月17日付けの福井新聞で、えちぜん鉄道の福井駅乗り入れ問題に関する報道において、三国芦原線の「LRT化」の文字が1面トップで大きく踊っていたことを見ると、今回の講演会が県内の「路面電車を活かしたまちづくり」の空気づくりの役割を一つ果たしたのではないかと思えてならない。今後の前向きな議論のさらなる進展を期待したい。

(文 清水省吾)

## 越前市市民バスのバス時刻表作成について

越前市では、平成の大合併で一緒になった「旧武生市」と「旧今立町」では、合併前からそれぞれで、コミュニティバスが運行されていた。合併にあたり、それらを見直すために「越前市公共交通活性化協議会」を開催することが決定、公共交通NPOからも委員をとることから、ROBAを代表して、私が出席させてもらっています。なお、この協議会の会長は川上福井大学教授です。

さて、何回かの協議会を経て、ROBAの中でも何回か、皆さんに意見を述べていただく場を設定させてもらい、その都度、協議会において「ROBA」として具申をさせていただきました。

それは、具体的な形で、バスルートの選定の際に、大いに反映されております。特に評判だったのは、公共施設をルートの中に入れる、武生新駅をルートの中に組みこむべき、フリー乗降ゾーンの設定、郊外路線で、両方のバスルートが接近しているバス停をハブ化する等の提案をしたところ、はバスの回転半径が取れないという技術的理由によりできないが後は、提案を盛り込まれて現在、試行運転中です。

そんななか、バス時刻表作成への協力依頼が協議会のなかで決定しました。どんな形式がいいのか、どのような時刻表をつくったらみんなが乗りやすくできるのか、また皆さんの意見をもらう場面が来ますので、その節はまた応援をお願いします。

昨年12月27日に、内田会長と一緒に越前市担当部局の方と、協議をしました。

ROBAへの期待も高いので、是非ここでNPOの底力を示していければいいなと思っております。皆さんのお知恵をお借りします。 (文 高橋 八州太郎)

作 / 漆崎 耕次

### 編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「雪はスキー場の上だけ降ってほしいですね」

塚谷(副編集長)

「次の来日時のため仏語勉強しなめます」

内田(発行責任者)

「あ～あ、また1年経ってしまった。欧米か！」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: [roba@mbh.nifty.com](mailto:roba@mbh.nifty.com)

URL: <http://roba.cocolog.nifty.com/roba/home/>